

滋賀県感染症発生動向調査 感染症週報

令和5年第35週(8/28~9/3)【COVID-19情報】

令和5(2023)年9月7日発行 滋賀県感染症情報センター

1. コメント

- ・滋賀県の定点当たりの報告数は15.33で、前週と比べ横ばいとなっています。全ての保健所別で横ばいとなっています。年齢別では、10歳未満で大きく増加しています。学校欠席者情報収集システムにおいても報告数が大きく増加しています。
- ・小中高等学校で2学期が始まりました。10歳未満、10歳代の感染動向に注視が必要です。また、70歳以上の報告数が多い状況が続いています。重症化リスクが高い方(高齢者、基礎疾患がある方等)と会う場合は、特に感染対策をお願いします。

2. COVID-19の定点当たり報告数(全国は前週)の値

定点当たりの報告数とは、定点医療機関からの1週間の報告数を定点医療機関数(COVID-19は60)で割った値のことで、1医療機関当たりの報告数のことです。(例:1週間の報告数200 ÷ 60 ≒ 3.33)

疾病名	滋賀県			保健所別							全国(前週)
	2週前	1週前	今週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	
新型コロナウイルス感染症	18.00	15.97	15.33	22.77	10.31	12.29	16.10	14.14	15.00	13.00	19.07

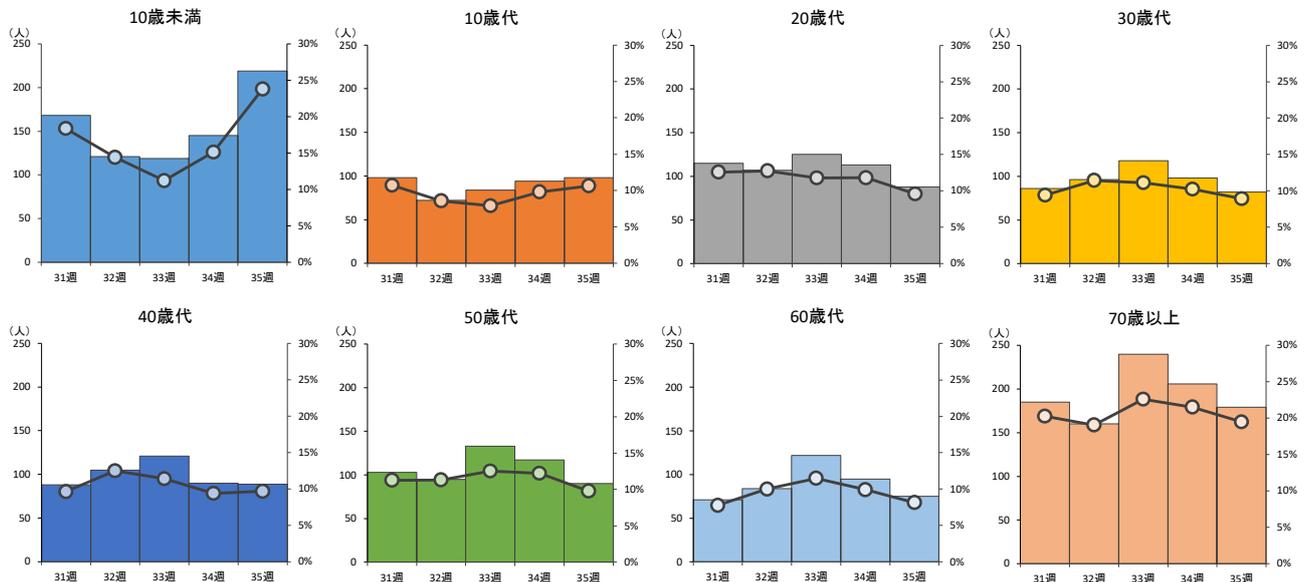
3. COVID-19の年齢階級別報告数(滋賀県、今週)

「-」:報告なし

COVID-19定点	総数	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14歳	15~19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳~
滋賀県(60医療機関)	920	15	19	29	15	20	30	20	22	16	17	16	74	24	88	82	89	90	75	95	84
大津市保健所(13医療機関)	296	4	3	6	3	1	3	3	6	3	2	3	22	9	37	26	47	34	26	36	22
草津保健所(13医療機関)	134	3	8	7	1	3	3	1	-	3	1	5	3	6	14	16	13	17	14	10	6
甲賀保健所(7医療機関)	86	1	1	1	2	2	2	1	3	2	2	1	5	2	7	11	5	10	5	12	11
東近江保健所(10医療機関)	161	2	4	10	4	6	10	7	6	5	5	4	22	3	14	14	9	10	7	10	9
彦根保健所(7医療機関)	99	1	-	1	1	-	2	2	2	1	2	1	8	2	12	4	10	10	16	14	10
長浜保健所(7医療機関)	105	3	3	4	4	6	10	6	5	2	4	1	10	1	1	6	2	6	6	9	16
高島保健所(3医療機関)	39	1	-	-	-	2	-	-	-	-	1	1	4	1	3	5	3	3	1	4	10

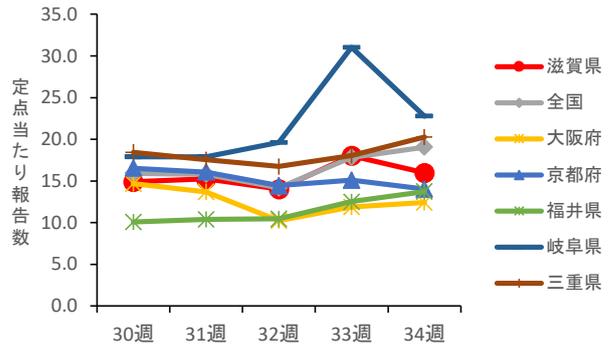
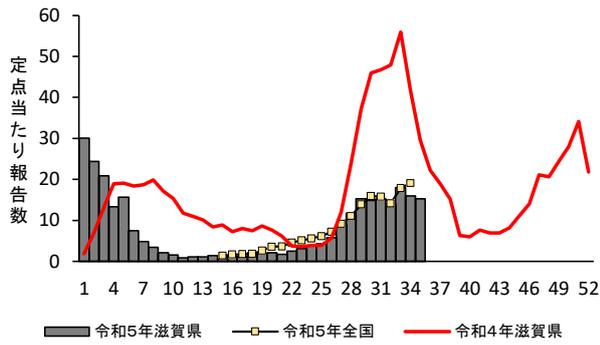
4. COVID-19の年齢階級別推移(滋賀県)

棒グラフ(左軸):報告数(人) 折れ線グラフ(右軸):全年齢に占める割合(%)

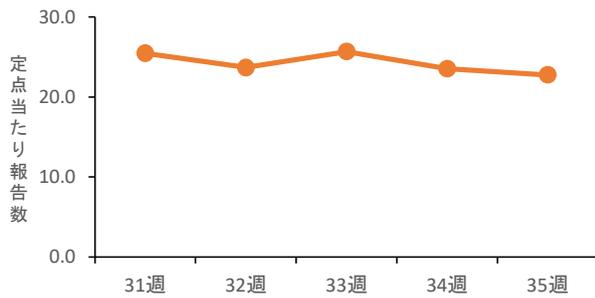


※第33週(2週前)の定点数は、滋賀県59医療機関、大津市12医療機関となっています。

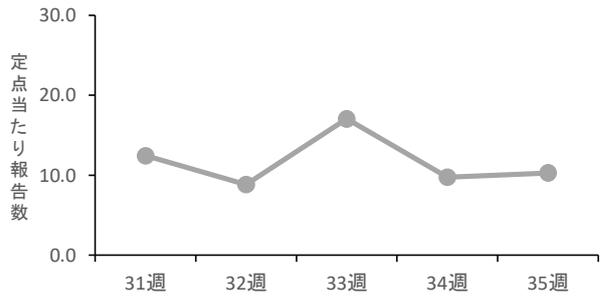
5. COVID-19の発生動向・保健所別推移等 (全国・他府県は前週まで掲載)



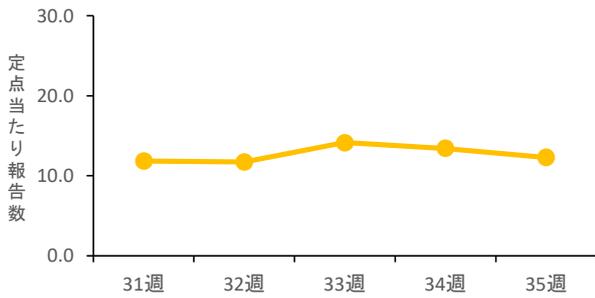
大津市



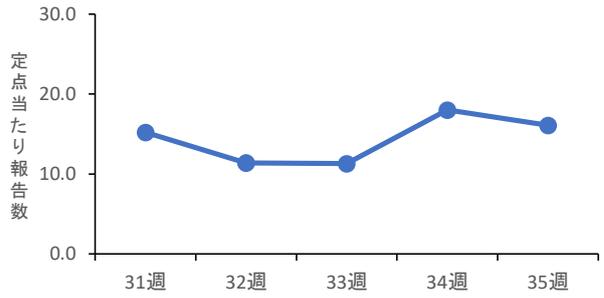
草津



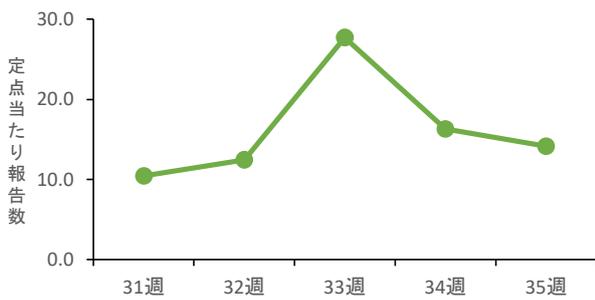
甲賀



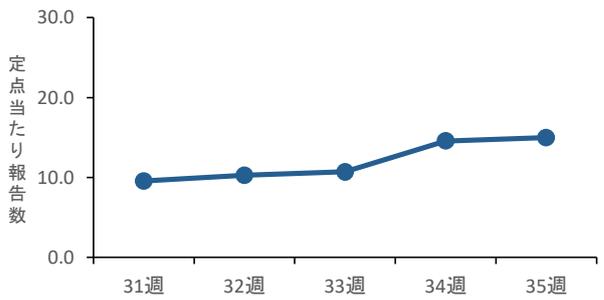
東近江



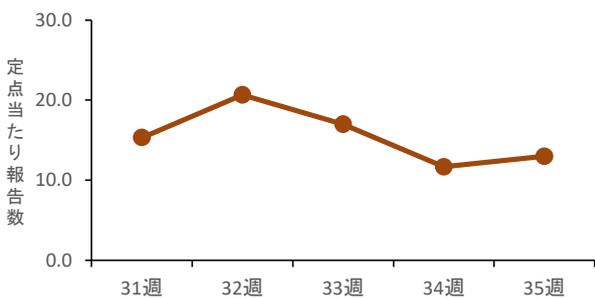
彦根



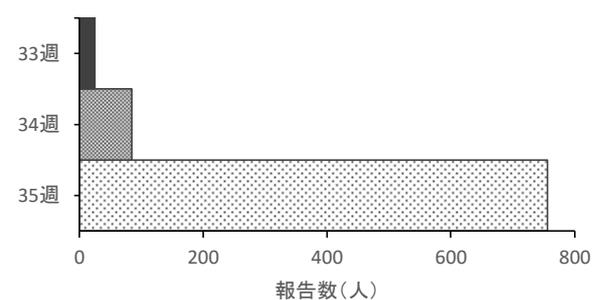
長浜



高島



学校欠席者情報収集システム(滋賀県)



変異株にかかるゲノム解析状況について

健康危機管理課作成
9月3日時点

- 世界的にはEG.5系統が26.1%、XBB.1.16系統が22.7%、XBB.1.9.1系統が13.2%、XBB.1.5系統が10.2%を占めている。(WHO COVID-19 Weekly Epidemiological Update Edition 158 published 1 September 2023)
- 全国的にはEG.5系統が増加傾向にあり、滋賀県でも令和5年6月に検出された。
- 滋賀県では、令和5年8月時点ではXBB系統が全体の79.0%(うちXBB.1.9.1系統は25.8%、EG.5系統は25.8%、XBB.1.16系統は8.1%、その他XBB系統は19.3%)を占めており、感染の主流系統となっている。
- WHOは、XBB.1.9.2系統の一種であるEG.5系統を注目すべき変異株として指定したが、入院患者数や死亡者数が増加しているとの情報はない。今後の発生動向を注視する必要がある。(WHO adds Omicron EG.5 to variant monitoring as global COVID markers decline further Lisa Schnirring, July 21, 2023)
また、BA.2.86系統について、30か所を超えるスパイク変異を持つため監視中の変異株として指定された。現時点で日本での検出は確認されていないが、変異部位の多さによる免疫回避能力の強さ等において今後の動向に注意が必要である。(世界の新型コロナウイルス変異株流行状況(東京都健康安全研究センター),令和5年8月23日)

ゲノム解析結果(検体採取日別 月報)

